



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

バハレーン：国家安全事態解除に関する国王の発言

(10日付現地各紙)

1. ハマド国王の発言 (10日付 Bahrain News Agency)

9日、ハマド国王は、サルマン皇太子、アブドゥラー最高イスラム評議会議長とともに、宗教指導者、宗教裁判所判事等と懇談した。

懇談の中で同国王は、国家安全事態（非常事態令）の解除は、バハレーン情勢が通常に戻ったことを実感してもらうための措置であるが、法の執行や治安の維持が無視されるということではない、我々の目的は、早く通常に戻って改革の車輪を回すことであると述べた。

(注：国民対話に関する言及はなかった。)

2. ハリーファ国防軍総司令官の発言 (政府系アイヤーム紙のみ報道)

9日、ハリーファ国防軍総司令官はアイヤーム紙を訪問し、同紙のインタビューを受けた。このインタビューの中で、ハリーファ総司令官は、バハレーンにおける危機は国内ではなく国外からもたらされたものであり、バハレーン国民はその犠牲者であったと述べた。また、国家安全事態が6月1日に解除されることが決定されたことを指摘して、国防軍、治安部隊、国家防衛隊が危機を乗り越えるにあたって大きな努力を払ったと述べた。

また、ハリーファ総司令官は、GCC 合同軍は必要性がある限りバハレーンにおける展開を継続すると述べた。